

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第21号 2009年12月

もくじ

巻頭言・10周年を超えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一條 美智子

創立10周年記念交流・懇談会特集

創立10周年記念交流・懇談会に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・末光 正忠

創立10周年記念交流・懇談会を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・糸井 守

新会員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・前田 研二郎・城 孝吉

立川市の環境施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・立川市環境対策課 渡辺 晶彦



黄色いサクラソウ



エーデルワイス



ブルーポピー

タークニャン
中国四川省奥地の大姑娘山(5025m)
にて2009年7月中旬撮影(藤井健史)

巻頭言

10周年を超えて

理事 一條 美智子

NPO法人武蔵野・多摩カウンセラー協議会(MECC)は、10年の目を超え、新たな一步を踏み出したところです。2050年に向けて60～80%の温室効果ガス排出量削減を目標とする地球環境保全対応に、エネルギー自給率の向上、エネルギー供給や消費の節約に対するプロポーザルに先進諸国一丸となって取り組んでいこうとの方向も日々具体化し、MECCの活動の意味は、一層、重みを増してきています。

先般、(財)省エネルギーセンターの依頼で、人材育成講座でお話をする機会を得ました。講演後のワークショップを拝見し、環境への真剣な取り組みが一般社会に広域に根付いて、本格的に深く関わって貢献したいとの参加者の思いが熱気を帯びて伝わってきました。知識を得るための参加でなく、地球環境問題を身近な事として捉え、現在各自が進めている活動をより充実させ効果的にしたいとの思いの参加が少なくありませんでした。最後の講評をさせて頂くにあたり、「この熱い思いを大切に今の活動をライフワークと捉え、細く長く楽しんで継続

して欲しい」と強くお伝えしました。方法・資料はいくらでも今は手に入ります。目的意識、捉え方・テーマ設定等が揺らがなければ、試行錯誤の経過をたどっても、仰ぐ到達点は同じと考えます。地球環境に関するテーマは広域な上に入り組んでおりますが、丁寧に育み、積み重ねたMECCの活動実績は、強靱な基盤となり、多種多様なオファーに対して充分期待に応えられると思います。

そして、いかなる場面にあっても一方的な知識の伝達に終始する事のないよう、十分な事前準備をして相手の要望を的確に捉えるというごく基本的な姿勢を心がけねばなりません。こうした地道かつ丁寧な活動がMECCの信頼性を益々高め、環境意識が定着していくことに繋がるでしょう。教育分野での人材育成にも力を注ぎ、「これからの10年」に向けてのフレキシブルで捉えやすい発信や提案等について、MECCの会員全員が事業部門・市民部門の枠を超えて両輪となり、クオリティの高い内容の立案・企画・実施ができればと思っております。

創立10周年記念交流・懇談会特集

創立10周年記念交流・懇談会に参加して

末光 正忠

秋晴れの好天气に恵まれた11月1日（日）の午後1時よりJR中央線三鷹駅北口にある武蔵野芸能劇場で表題のMECC創立10周年記念交流・懇談会が開催されました。

開催にあたり、NPO法人環境カウンセラー全国連合会、東京都環境カウンセラー団体連合会の協賛を得て、三多摩各市の環境担当部署に案内を持参し、手分けして各部課長に面談して出席をお願いしました。飛び石連休もあって、予想より来訪者が少なかったのですが、杉並区からは区議会議員をはじめ、国分寺市の環境部の複数の担当者、個人参加の環境関連の方々、ワーキングホリデーで韓国から来て石神井川の清掃活動にボランティアで参加している女性などの出席もあり、参加者は50名を超えました。

会場では2階小ホールを取り囲むようにMECC会員によるポスター展示を行いました。

展示内容は、地球温暖化問題関連でエコロジカル・フットプリント、新エネルギー利用促進、省エネ法改正、エコアクション21、ライフサイクルアセスメント、環境教育・学習、身近なごみ減量、まちづくり活動への参画(国分寺市)、井の頭池の外来魚駆除調査と水環境の全国

一斉水質調査、自然観察・自然体験、東京外かく環状道路建設に関する行政と住民の合意形成、多摩各市の公害規制事務、我が家の環境大臣等取り組み結果など、環境に関わるさまざまな分野にわたりました。

第一部の講演会では、環境省関東地方環境事務所長の阿部宗弘氏を講師に「生物多様性～考えてみよう、いのちのつながり」のテーマで講演していただきました。次に(株)ハチオウ代表取締役森裕子氏に「環境企業(産廃処理)の事業推進における生きがいと課題」として、現場のさまざまな活動を報告いただきました。休憩後、第2部として会員の藤井健史氏から「NPO法人MECC10年の歩みと活動報告」を行いました。その後、飲食しながら展示した各セクションの担当者から自己紹介をかねた活動報告がありました。それぞれの報告が終わったところで寄付を受けた本やプチプレゼントの抽選があり盛り上がりしました。

わずか半日の会でしたが、50人近い会員が、プレスリリース、プログラム作成、記録、司会、会場設営、横断幕、めぐり、受付、印刷物、飲食ケイタリングなどの担当に分かれて取り組みました。当日どうしても出席出来ない会員もいましたがどうかうまく出来たと思います。私

は、5人で飲食と会場設営を担当しました。飲食では、なるべくごみが出ないようにとのことで大瓶のビンビール、日本酒、ワイン、焼酎、陶磁器の皿、竹の割り箸、グラス(会場に備え付け)、料理は、サンドイッチ、おにぎり、漬物、果物、サラミソーセージ、カキピーナツ、手づくりのりんごケーキを用意しました。お陰様で食べ残しはほとんど無く、残った漬物他少しのものはお持ち帰りいただくことができました。皆様のご協力により、過不足なく出来たかと感謝申し上げます。ありがとうございました。



創立10周年記念交流・懇談会を振り返って

MECC 理事長 糸井 守

1. 「環境カウンセラー」制度の発足とその役割

「環境カウンセラー」は、平成8年に環境大臣の告示によって定められた環境省の登録制度です。「環境保全に関して担うべき役割及び環境保全活動の有する意義の理解を増進するとともに、その自主的な取り組みを促進し、もって全ての主体が環境保全に参加する社会の実現に資する」ことを目的として発足し、この活動に関する助言、指導等のカウンセリングを行える適切な能力・識見を有する者が登録する制度です。登録には、事業者を対象とした環境カウンセリングを行う「事業者部門」と、市民の発意に基づく非営利目的活動の法人・団体を対象とした環境カウンセリングを行う「市民部門」があります。登録希望者には、環境活動の知識・経験および環境カウンセリングを行い得る資質・能力を有することが必要で、論文・経験証明等の書面審査とその合格者への面接審査に合格した者が登録されます。

現在、登録者は全国で4600人強になり、環境省においても、今日の環境諸問題解決へ向けて、環境カウンセラーの積極的な活動が期待されています。

2. MECC 交流・懇談会開催の主旨

当会が発足して満10年が経過し、会員の陣容が整い、これまでの活動成果も蓄積され、環境問題全般についての様々な問題・課題に対応していくことが可能になりました。そこで、自治体の政策立案者、企業・団体の経営者、管理者、市民環境活動グループのリーダー等の皆様と、よりよい地域環境創造や個々の環境課題解決に向けて交流・懇談を持ちたいと考え、本会を企画いたしました。

プログラムの流れは末光氏からの報告に詳しいですが、二氏のゲストスピーチと当会会員の17事業にわたる活動成果発表を軸に進行しました。この後は、軽飲食を伴う形で各々の関心あるブースに集い、フリーディスカッションにて交流を深め、大変有意義な時間を持つことができました。

3. MECC 活動の今後

今般の交流・懇談会を振り返ってみますと、環境カウンセラー制度の設置背景や、広範で複雑多様化し、緊急対応等を必要とする今日の環境諸問題に鑑みて、環境カウンセラーの果たすべき役割・機能がますます高まってきたと強く感じました。同時に、スピーディに対応していくためには、相互のより緻密なコミュニケーション促進が重要であることも痛感し、今後さらに積極的な情報提供・交換や人的交流の促進に配慮していきたいと考えております。



●●● 新 会 員 紹 介 ●●●



三鷹市在住の前田研二郎です。学生時代は川の底生生物の調査等を行い、狩野川の源流から下流までの調査を行いました。現在は建設コンサルタント（造園・建設環境）に勤務しており、日々自然環境と向き合っております。

糸井理事長と神田川ネットワークで出会い、

理事長の日頃行っている活動に賛同し、この会に入会させていただきました。井の頭公園、神田川の活動を中心として、お手伝いをさせていただければ幸いです。市民活動は、毎年小学校のプールに於いて、ヤゴ救出大作戦等を行っております。実務経験豊富な会員の皆様と、共に学び歩んで行ければと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。

新 会 員 紹 介



生まれも育ちも町田の城孝吉です。20年程前に入社した液体ろ過用フィルターの製造・販売会社におきまして、職務上排水や作業環境などの影響を調査したことが、環境との初めてかわりです。その後、製品含有化学物質管理業務を中心に環境全般を行っていましたが、上司から環境を天職にしたいのなら独立か転職した

ほうが将来のためには良いのではないかとのアドバイスもあり、現在のシール製品の製造・販売会社に移り、環境の専門部署で主に環境教育と子会社の法令監査を行っています。環境に対する知識をより向上させるため、環境カウンセラーではありませんが、この度入会させていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

立川市の環境施策について

立川市環境対策課長 渡辺 晶彦

地球温暖化が原因と考えられる気候変動により、生態系の損失や、食料生産の減少、感染症の拡大、水循環の変化から起こるゲリラ豪雨や、洪水、土砂災害の頻度も全国で増加しています。

立川市周辺でも、平成17年から降雨量が変動し、1時間あたりの雨量が50mm以上の短期集中型のゲリラ豪雨が発生しました。IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）によると二酸化炭素などの温室化効果ガスの排出量の増加が原因による地球温暖化は、間違いない事実であります。

立川市では、平成11年3月に環境基本計画を策定しました。この計画では、本市が目指すべき環境像として「人と自然を調和させるまち」を掲げ、市民や事業者の皆様とともに地球規模で考え、地域で行動する取組みを進めています。

この基本計画をより具体的に実施するため、アクションプランとして5年間ごとの環境行動計画を策定しております。現在、平成22年度からの第3次環境行動計画策定の準備を進めており「できることから着実に」をコンセプトに次の時代の行動指針を市民、事業者、団体の方々と協議して策定していきます。

立川市の中央部は、JR立川駅付近の商業施設や立川基地跡地を利用した業務事務所を中心とした市

街地で、北部は武蔵野の面影を色濃く残す緑豊かな地域とに分かれています。市から排出されるエネルギー起源の二酸化炭素排出量の割合も家庭部門、業務部門、運輸部門がそれぞれ高い地域特性があります。

市の温暖化対策としては、平成19年2月に「立川市地域省エネルギービジョン」を策定し、市民、事業者、団体と連携して取り組んでおります。また、環境フェアを、「立川しみん祭」・「緑化まつり」・「Flower Festival 2008 in 花みどり文化センター」と合同で春の楽市として開催しております。

さらに環境負荷削減に優れた取組みを行っている市民、事業者、団体、学校を表彰するため「たちかわ環境賞」を創設し、取組みを紹介しております。家庭向けには太陽エネルギー利用機器を設置された住宅に補助金制度を平成21年度から実施し、また、ちょっとした運転技術で二酸化炭素の排出量を削減でき、家計にも優しく地球にも優しく安全運転につながるエコドライブの講習会を開催します。

様々な環境施策に取り組み、よりよい環境の実現に努めてまいりますので、本市の環境行政に環境カウンセラーの皆様のご理解とご協力をよろしく願います。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) 事務局
180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守
TEL：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：中西由美子